

Voice **ボイス** 横浜市議員 [青葉区] 山下正人

2018年(平成30年) 市政リポート

健康福祉、医療局、病院経営委員会の1年を振り返って

動物福祉政策に光を!


健康福祉局は動物愛護政策も所管します。



～動物の幸せは、私たち人間の意識次第～

動物福祉が進んでいるドイツから学んだ取組みを、横浜市でも実現したいと考えています。



 世界最大の動物シェルターであるドイツの“ティア ハイム ベルリン”（動物の家）を訪問。日本とは大きく異なる動物福祉に驚きです。

東京ドーム約3個分以上の大きさを誇る施設には、年間に一万頭の動物を管理しており、その建設費や運営経費の多くが一般市民からの寄付金で賄われています。この施設では100%の里親を目指す活動を行い、新しい飼い主に譲渡しています。ドイツではペットショップで犬や猫を購入するのではなく、保護施設から引き取るのが一般的だということです。



▲保護された動物たちは目に止まるPOPで、家族となる人達へメッセージを送ります。



▲コンセプトは動物との共生。次の里親を待つ「動物の家」は希望に満ちています。

「トラブルを起こすのは、動物の問題じゃない。問題なのは人間です」と、案内役の方が言い切りました。人と共生するために動物を尊重することは時間がかかるだろうが、ペット業界、飼い主の意識等を変えていく動物福祉の教育が急務だと感じました。横浜市でも里親探しに力を入れています。ベルリンには及びませんが、殺処分ゼロの取組みも急ぎます。

- ポイント!**
- ・施設の整備、運営資金は全て寄付金
 - ・殺処分は基本ゼロ（動物が病での安楽死は認める）
 - ・問題行動は動物の責任ではなく人の問題

- ・ペットショップではなく、シェルターから動物を引き取る
- ・学校でシェルターを訪問し、動物愛護教育が浸透している

京都 京都市と京都府が共同で運営する京都動物愛護センターは、日本国内では一番意識の高い施設ではないでしょうか。

ここは公園の一部を使って施設を建設したので、公園利用者の目に施設が認識されやすく、また、ドッグランを併設しているので、愛犬家のネットワークに施設の意義が伝わりやすくなっています。注目は、積極的に保護動物の譲渡を推進している点です。



- ポイント!**
- ・京都市と京都府の共同で運営されている稀な施設
 - ・市民が保護犬（猫）を求めて気軽に訪問できる雰囲気
 - ・ボランティアを多く登録して、彼らのネットワークから保護動物の口コミを広げている
 - ・ドッグランを併設して、Welcome 感に溢れている

横浜 横浜市でも譲渡を進め、殺処分ゼロを目指したい。市民のコンセンサスを取り、共生への理解を深めていきたい。



9億円近い予算をかけて畜犬センターから動物愛護センターに名実ともに生まれ変わったのは平成23年。もちろん、犬や猫の譲渡政策を推進していますが、市民の認知度・関心は決して高いとは言えません。担当市職員に聞いたところ、NPOなど約30団体の登録先に譲渡するケースが多数で、個人譲渡は見極めが難しいのが現状とのことでした。殺処分は減少しましたが、今でも3桁に及ぶ動物達が処分されています。

横浜動物愛護センターは施設が無料で開放されています。芝生のふれあい広場も予約をすればリード有で使用できます。ペットショップではなく愛護センターから引き取るという選択肢があること、動物保護の意識と理解をより一層高めていきたいと思えます。



議会等で質問・提言!

- ・明るい雰囲気改善して、市民が訪問し易いように工夫する
- ・保護犬を災害救助犬に訓練するなど、専門家との連携が必要なのは
- ・ドッグランを併設するなど、市民利用の拡大目指すべし

横浜市の動物愛護センターを日本を代表するような施設に変えていきたい。中川環境大臣からも背中を押していただきました。

環境大臣へ報告



中川雅治環境大臣に面談いただき、横浜市の環境政策等を報告・意見交換を行いました。大臣には横浜市の環境未来都市としての取組に評価を頂きました。一方、私からは、環境省の政策の中では目立ちませんが、動物愛護政策の横浜市の現状を報告するとともに、先進事例の欧州を訪問した報告を行いました。

中川大臣からも、“環境省職員が同じ施設を訪問しており、先進事例として関心がある”という旨のご発言があり、欧州に近づく一歩として、眼前の横浜市の施設を少なくとも我が国の先進施設にしたいと強く感じました。

横浜市会での仕事

健康福祉・医療局・病院経営委員会の1年を振り返って

地域福祉、障害者福祉、高齢者福祉、健康増進、疾病予防、食品衛生、感染症対策、医療政策、地域医療、市立病院の経営などの事業について審査します。



平成29年度の担当委員会は、福祉・医療等を所管する委員会でした。

私は、社会福祉は政治家にとって最も重要な政策と考えています。

そもそも税の再分配を決めるのが政治の役割です。豊かな方から納めて頂いた多くの税を、障害等の困難を抱える社会的弱者を救済することが福祉の原点であるからです。その意味では、この一年を通じて、福祉事業の充実に意見を述べてきました。

しかし、一方で考えねばならないのが世代間の課題です。シルバー民主主義と言われるように、政治の関心が高齢世帯に偏る為に、政策決定が高齢者政策に重きをおく傾向があります。福祉の政策は現在税金を納めていない、小学生達が社会人になった時も継続している必要があります。その為に、政治家は10-20年先を見据えて、政策決定を行う必要があります。私は、本委員会のなかで、事あるごとに、政策の持続性を訴えてきました。少子高齢化社会を目前にして、負担する人が減り、受益を受ける人が増えます。ご高齢の方には申し訳ありませんが、「優先度の低いサービスを少し我慢して頂き、孫子の時代も社会福祉政策が継続できる様に協力をお願いしたい」と考えています。



◆平成30年度の担当委員会◆

平成30年度も昨年に続き健康福祉の委員会に配属となる予定です。多岐にわたる福祉事業の継続性を念頭に、医療・福祉の充実に努力して参ります。



山下正人プロフィール

昭和39年8月生まれ。同志社大学商学部卒業。セコム株式会社、ソニー生命保険株式会社を経て、平成19年4月横浜市議員初当選。以降3期連続当選。元荏子田小学校 PTA会長。

横浜市議員 山下正人事務所

〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘 5-1-5-210 電話 . 045-905-5006 FAX. 045-905-5009
E-mail : myoffice@m01.itscom.net <http://www.yamashitamasato.com>